

第2回DIC協議会総会 資料

令和4年9月14日

1. 令和4年度DIC協議会スケジュール

2. 各PTの開催結果

3. 実証企画の承認

4. ライブ・エンタメを軸としたDICの取組方向性

5. その他

6. 今後のスケジュール

令和4年度Digital Innovation City協議会のスケジュール

取組		令和4年（2022年）										令和5年（2023年）		
		1～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会	総会		第1回					第2回			第3回			第4回
	連絡会			第1回					第2回		第3回			第4回
検討会・PT	会議	第2・3回 開催		第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回
先端技術の実装に向けた取組	データプラットフォーム構築検討会	実証	検証	仕様検討			企画募集	承認	(調査・要件整理)					
	ライブ・エンタメ			先端技術の募集・選定				実証		実証				
	モビリティ・物流	実証	検証	先端技術の募集				承認				実証		
	防犯・防災	立上げ		委託の募集・選定			企画募集	承認	(調査・要件整理)					
	環境・サステナビリティ			承認				(実証)			(実証)			
	自動運転	実証	検証	公募		選定	実施調整					実施	検証	
DIC社会実装支援窓口	RHDとの調整	各施設等との調整					窓口開設	スタートアップ向けPR・受入調整						
5G普及促進事業	事前調整・契約準備	契約	実施準備	5G専門家派遣・通信キャリア等との調整・DX化補助金との連携										
DX推進補助金	協議会・まち協等との調整	募集開始	協議会・5G普及促進事業との連携による制度周知・支援											
広報	SNS	Facebookページを活用したPR（随時）												
	HP	ホームページを活用したPR（随時）												

実証の検証を踏まえた令和5年度の方定性検討

1. 令和4年度DIC協議会スケジュール

2. 各PTの開催結果

3. 実証企画の承認

4. ライブ・エンタメを軸としたDICの取組方向性

5. その他

6. 今後のスケジュール

第1回モビリティ・物流PT 開催結果（概要）

開催日	<ul style="list-style-type: none"> 2022年5月20日（金） 10 時00分～11時30分
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> 日本科学未来館 海王星会議室
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 日本科学未来館、東京都立産業技術研究センター、日本工営(株)、DIC事務局
議事/	主な意見
今年度の 実証について	<ul style="list-style-type: none"> モビリティ実証を複数合同で行う場合の時期はいつ頃になるのか <ul style="list-style-type: none"> ➢ 複数候補① 9月のART BAY TOKYOの開催時期、候補②年明け 1 月頃の自動運転実証の実施時期 被験者の白杖所持は望ましくない。AIスーツケースのユニークネスは、周りから気を使われている感覚から視覚障害者を開放する点にある 縮尺が正確な公園内歩行可能エリアのデータ、路面状況のデータが6月頃に必要 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 庁内関係部署およびゆりかもめへ確認する ゆりかもめとの調整はどのように進めていくべきか <ul style="list-style-type: none"> ➢ 実施計画をもとにゆりかもめの調整先セクターを確認する
次年度以降の 展望について	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降のイベント規模は以下の理由で拡大 <ul style="list-style-type: none"> ✓ ①実証エリア延長に伴うインフラ整備 ②体験者数の増加 ③スーツケース台数の増加 事業化に向けて、以下の通りスケールしたい <ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期的：施設（駅や空港）での貸し出し型 ✓ 長期的：パーソナルモビリティとしてシェアリングビジネス化/一部個人所有（※）も狙う <ul style="list-style-type: none"> ※市場が小さいため、都市のインクルーシブに資する取り組みとして、自治体やNPOとの座組が必要

第2回モビリティ・物流PT 開催結果（概要）

開催日	<ul style="list-style-type: none"> 2022年7月20日（水）10時00分～12時00分
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> WEB会議
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 日本科学未来館、東京都立産業技術研究センター、Le DESIGN(株)、日本工営(株)、DIC事務局
議事/	主な意見
実施計画上の懸念点や論点 (AIスーツケース)	<ul style="list-style-type: none"> 現段階で、追加で提供いただきたいデータ等はないが、テスト後に追加依頼をかける可能性もある 防水性能は生活防水以下の基準であるため、雨天での走行は難しい 各所と調整を進めるにあたってイベントの全体計画が必要になるため、早急にイベント全体の運営プロモーターを決定頂きたい
実施計画上の懸念点や論点 (新型モビリティ)	<ul style="list-style-type: none"> モビリティ実証全体のイベントプロモーターがいると助かる 警察庁との調整を早急に行いたい
実施計画上の懸念点や論点 (自動運転)	<ul style="list-style-type: none"> 公道横断の是非について警察庁と要調整 連携する施設との調整を進める必要がある
プロモーターの建付け について	<ul style="list-style-type: none"> “事業準備・環境整備”の主担当はイベント全体のプロモーターなのか、個別実証実施主体なのか相談のうえ決めていきたい <ul style="list-style-type: none"> ➢ “イベント運営事前準備”イベント全体のプロモーターが実施すると認識 自動運転車両とAIスーツケースのルートを補完するルート設定でも問題ない 各実証の広報規模は小さいため、合同で発信した方が見栄えが良い 参加者募集はプロジェクト全体のプロモーターがある程度統括して推進した方が全体最適である <ul style="list-style-type: none"> ➢ リソースを確認し、可能な範囲で対応したい

第1回ライブ・エンタメPT 開催結果（概要）

開催日	<ul style="list-style-type: none"> 2022年5月24日（火） 15 時00分～16時30分
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> WEB会議
参加者	<ul style="list-style-type: none"> (株)フジテレビジョン、森ビル(株)、（一社）東京臨海副都心まちづくり協議会、DIC事務局
議事/	<p style="text-align: center;">主な意見</p>
まち協の実証について	<ul style="list-style-type: none"> 花火の眺めがベストなわけではないが、現実的に利用可能なのがテレコムセンター展望台 STAR ISLANDのように、お台場の花火をどうマネタイズしていくかが重要。お台場のロケーションは、「夜景×花火」「海水浴」などでポテンシャルが高い 花火が中止になった際は、イルミネーションで代替予定 次年度以降は、以下根拠で予算が拡大 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2年目：機器台数の増加 等 ✓ 3年目：機器台数の増加、屋外設営費 等
森ビルの実証について	<ul style="list-style-type: none"> 会場は遮光性や天高が重要となり、ホールや映画館に近いスペックが望ましい <ul style="list-style-type: none"> ➢ 会場の仮押さえは必要 2年目以降の興業面の検証では以下項目が重要点になる <ul style="list-style-type: none"> ✓ 実際に箱を作り、ビジネスモデルとして成立するの可否か ✓ 実証費用が著しく増加するため、スポンサーからの支援やDIC予算充当が可能か 既存のコンテンツに付加価値を乗せることで、新体験のコンテンツとしてビジネスモデルが成立するのではないかという仮説がある IMAGICA EEXの技術をお台場で実証し、連携が深められれば、DICから新たなエンターテインメントを生み出せる
産労ピッチについて	<ul style="list-style-type: none"> 実証し、翌年以降に繋がりそうな企業を選ぶべき エリア内で事業する身としては、先々の展開が見える企業を支援したい 事業化からバックキャストで必要な実証を実施するべき。実装までのストーリーが示せるよう、ピッチの募り方もポイントとなる <ul style="list-style-type: none"> ✓ 更に検討を深めたうえで、再度ご意見を頂戴したい

第2回ライブ・エンタメPT 開催結果（概要）

開催日	<ul style="list-style-type: none"> 2022年7月27日（水）13時00分～15時00分
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> WEB会議
参加者	<ul style="list-style-type: none"> (株)フジテレビジョン、森ビル(株)、(一社)臨海副都心まちづくり協議会、東京大学大学院情報学環、DIC事務局
議事	<p style="text-align: center;">主な意見</p>
実証企画に対する ご意見 (まち協)	<ul style="list-style-type: none"> ホログラム単体での集客は難しいと考えている KPIをより具体化すべき（ex.通常時を比較してどの程度の来場者数が見込めるか、期間中最大何人がイベント体験できるのか） 次年度以降は屋外での実証を行うと記載があるが、目指す方向性が不明瞭であった <ul style="list-style-type: none"> ▶ 花火というお台場の夜景とテクノロジーを掛け合わせて魅力向上を図ることが主旨 社会実装をどうイメージしているのか <ul style="list-style-type: none"> ▶ RHDとしてオーソライズした意見でないが、来訪者に対してエリアならではのおもてなしができるようなイベントの開催に繋がりたい 透過スクリーンであれば、花火と夜景を融合することができるため3D Phantomに拘る必要もない
実証企画に対する ご意見 (森ビル)	<ul style="list-style-type: none"> 無料イベントであるが故に満足度が高くなることは推察できるため、KPIの指標を追加すべき <ul style="list-style-type: none"> ▶ 満足度はテクノロジーよりも、コンテンツやスケール感によるものが大部分であると考えているため、視聴覚での体験価値向上による満足感を検証したい ▶ いくら払えるか等の基本項目を聞くことに加え、クリエイター視点の項目も設けたい
2025年に向けた ご意見	<ul style="list-style-type: none"> イベント自体を主催するのではなく、地域に根付いたイベントを支援していく意味合いで環境づくりやユースケースづくりをしていくべきと考える 枠組みだけ提供してプレイヤーに持ち込んでもらう等、どういう仕組みがエリアのプラットフォーム機能として有効か議論していきたい <ul style="list-style-type: none"> ▶ イベントは継続性が重要。質が良くても単発で終わるイベントもあり、継続していくために必要なこと（規制緩和等）を考える必要がある ▶ DICでは規制の影響を受けにくいイベントの枠組みを作るのも一案 ▶ 特に夜間屋外イベントでは、賑わいとその弊害のバランス管理（ex.音の問題や参加者のモラル・マナー）が重要 ▶ エリアではイルミネーションアイランド等のイベントを施設とうまく連携していければと思う

第1回データプラットフォーム構築検討会/防災・防犯PT 開催結果 (概要)

開催日	<ul style="list-style-type: none"> 2022年5月31日 (火) 15 時00分～17時00分
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> テレコムセンタービル 東棟20F 2会議室
参加者	<ul style="list-style-type: none"> (株)フジテレビジョン、森ビル(株)、(一社)まちづくり協議会、東京都立産業技術研究センター、産業技術総合研究所臨海副都心センター、日本科学未来館、DIC事務局
議事/	主な意見
DP構築の検討方針について	<ul style="list-style-type: none"> 費用や有用性を考慮すると、エリアDPの独自性は最小限とし、共通利用できるものを十分に活用する方向性の方がよい 本協議会の規模でDP運営ができないのであれば、実現可能なものから逆算して検討する必要がある 臨海副都心ならではのサービスを提供していくことが前提にあるのであれば、そのためのニーズ把握を先行すべき 先行事例同様、DP構築が目的化しないようにする必要がある 特定のユースケース (ex.大規模イベント時の避難など) に絞って検討を深度化していく必要がある 地図情報など使いたい情報の手続きが煩雑であるため、情報を徹底的にオープン化するのも一案
DP構築の要件について	<ul style="list-style-type: none"> DPをオープン化することでオーナーの過度な負担を軽減し、自発的な利用を促せると考えている 有事のエリア脱出が特有の課題となるが、例えば自動運転だと、平時はエリア回遊、有事はエリア脱出などの使い分けが想定できる エリア内のインフラデータを予め蓄積しておき、災害時に安全案ルートを提示するというのも一案 震災時を参考にすると、いかに安全安心にエリア内に留まれるかが重要。何日滞在できて (ホテル、避難所情報など)、どこから帰していくのか、など企業では判断できないものを行政的な防災DP分野できるとよい 有事などの際、消防車が橋を渡れない前提であることも課題 震災時、一時避難施設では1時間に1回手書きで情報共有をしたため、デジタル化できるとよい パーソナルモビリティで回遊しやすいまちにすることもエリアの価値となる 来訪者集客と回遊性向上の双方をバランスよく保つ必要がある
ナイトレイの実証企画について	<ul style="list-style-type: none"> プロトタイプそのものの実用性が低く、ダッシュボード構築検討に向けた材料としたいのであれば費用をかけすぎという印象もある 見え方を整理することが目的となっているのであれば、アウトプットを整理したうえで検証すべき イベント時の防災をユースケースとするのであればイベント参加者の人流データを取得した方が有用

第2回データプラットフォーム構築検討会/防災・防犯PT 開催結果（概要）

開催日	<ul style="list-style-type: none"> 2022年8月4日（木）13時00分～14時00分
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> WEB会議
参加者	<ul style="list-style-type: none"> (株)フジテレビジョン、森ビル(株)、(一社)臨海副都心まちづくり協議会、産業技術総合研究所、DIC事務局
議事	<p style="text-align: center;">主な意見</p>
今後の DP構築の進め方 (ご意見)	<ul style="list-style-type: none"> 非常時だけに特化したものができないよう、平時への活用も見据えて非常時のユースケースづくりを検討して欲しい 平時でもとりわけ大規模イベントでは人流解析や交通情報をかけ合わせられるとよい “TIF避難訓練”とDPをうまく連動させながら推進したい スケジュールがタイトであるが、予めの説明を頂ければ進め方に異論はない 募集期間が2週間しかなく、タイトな印象を受けた
今後の DP構築の進め方 (論点)	<ul style="list-style-type: none"> エリア内の就労者は企業毎の判断や備蓄で数日は凌げるため、<u>有事のターゲットは来訪者にフォーカスした方が意義のあるシステムになる</u> <u>リソースの定義（ex.水、食料、電気）を決めておくことが重要。</u> 場合によってはリソースのデータセットを提案してもらってもよいと思う 意義のあるシステムにするためにも、<u>リソースデータ提供者はデータ公開に賛同しているのか、自社分以外の備蓄を準備しているのか確認し、そうでない場合は来訪者向けのリソース情報をどう整理するべきなのか検討しておくべき</u> <ul style="list-style-type: none"> ➢ まち協の防災部会とも議論していきたい

1. 令和4年度DIC協議会スケジュール

2. 各PTの開催結果

3. 実証企画の承認

4. ライブ・エンタメを軸としたDICの取組方向性

5. その他

6. 今後のスケジュール

今年度募集を予定していた実証企画

第1回DIC協議会総会において、今年度は2件の企画募集を予定していた

公募予定企画

	テーマ	募集企画	企画者
1	②モビリティ・物流	新たな観光自動運転モビリティ（仮） ・2～3人乗り程度で、公園内または施設内を低速走行するモビリティを募集予定 ・2週間程度の実証を想定 ・今後、2022年6月以降に公募を開始し、先端技術企画の募集・選定を行う予定	久留米工業大学（東教授）より募集の意向あり

事務局予定企画

	テーマ	募集企画	企画者
2	③防災・防犯 ④データプラットフォーム	平常時・非常時に活用できるデータベースの要件整理（仮） ・現状調査、人流センサー設置による人流把握や避難シミュレーション実証、データベース要件整理に係る委託 ・今後、委託の募集・選定を行い、2022年7月から調査・実証・要件整理	協議会事務局 （アドバイザー：産総研）

応募状況

- 臨海副都心エリアにおけるモビリティでの移動サービスに関して、6/6～6/20まで実証プロジェクトの公募を行ったところ、1件の応募があった

	テーマ	企画概要	企画者・企画参加者
1	①モビリティ・物流	観光用小型自動運転モビリティによる新たな観光サービスの実証事業 新規開発中の観光用小型自動運転モビリティや追従モビリティに観光ガイドを融合した先進観光サービスをデザイン思考でプロトタイピングし、シンボル～ウェストプロムナード周辺でサービスのマーケティングと改善点を抽出	Le DESIGN株式会社（久留米工業大学発スタートアップ）

企画選定

- DIC協議会運営事務局により事前審査を行い、DIC協議会総会での承認を得て決定

観光用小型自動運転モビリティによる新たな観光サービスの実証事業

テーマ
②モビリティ・物流

臨海副都心の課題
<ol style="list-style-type: none"> りんかい線やゆりかもめの1次到着駅から最終目的地までの2次交通が不足。アクセシブル、インクルーシブな移動・回遊環境がない。 コロナ禍の影響もあり、日本の先進技術や、おもてなしを世界発信する見本市の役割を十分に果たせていない

2025年に目指す姿
<ol style="list-style-type: none"> すべての人が躊躇なく利用できる持続可能な先進モビリティサービスが整備され、安心して観光を楽しめる 日本らしい安心安全な先進技術と、おもてなし思想を体験する国内外の観光客で活気にあふれている 街中に思いやりの優しい笑顔があふれている

企画概要
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画名称案 「観光用小型自動運転モビリティによる新たな観光サービス」 ■ 企画概要案 シンボル～ウェストプロムナード周辺で新規開発中の観光用小型自動運転モビリティや追従モビリティによるインクルーシブな観光を支える先進モビリティサービスの技術実証を実施。 xR観光ガイドとの融合を見据えた市場調査も実施する。 ■ 開催時期 ※研究開発状況にて要相談 第一候補：2023年1月下旬（5日間程度） 第二候補：2023年3月上旬（5日間程度）

活用する先端技術
<ol style="list-style-type: none"> 新型観光用小型自動運転モビリティ (コンパクトでパブリックな新発想複数人乗り小型モビリティ) 5Gリモート手助けによる安全安心な自動運転サービス (万一の際に遠隔操作で安全な場所へ移動するシステム) 高精度衛星測位システム (「みちびき」などのGPS-RTKコンパスで自己位置認識)
企画参加者・役割
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画：Le DESIGN株式会社（久留米工大＋三菱総研） ■ 役割：企画、統括、車両開発（協力：パーソルR&D）

3か年計画	
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型車を用いた観光サービスの課題抽出 ■ xRガイドと融合した新観光サービスの市場調査 ■ 規制緩和提案に向けた協議
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型車による観光サービスの先行導入実証 ■ 自動運転とxRを融合した新観光コンテンツ開発 ■ 上記SDGs対応観光サービスの海外発信
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上記観光サービスの本格導入（事業開始） ■ 関連スタートアップエコシステム基盤形成

想定KPI
<ul style="list-style-type: none"> ■ 新型モビリティによる新たな観光モビリティサービスのユーザー満足度（アンケート評価） ■ xRガイドと融合した新観光サービスの市場調査 ■ 新型モビリティの改良点抽出

観光用小型自動運転モビリティによる新たな観光サービス（Le DESIGN株式会社）

2025年に目指す姿

- エリアに来場したすべての方が利用したくなる「先進モビリティxR観光サービス」が実装されており、安心してお台場エリアの観光とおもてなしを楽しめる。

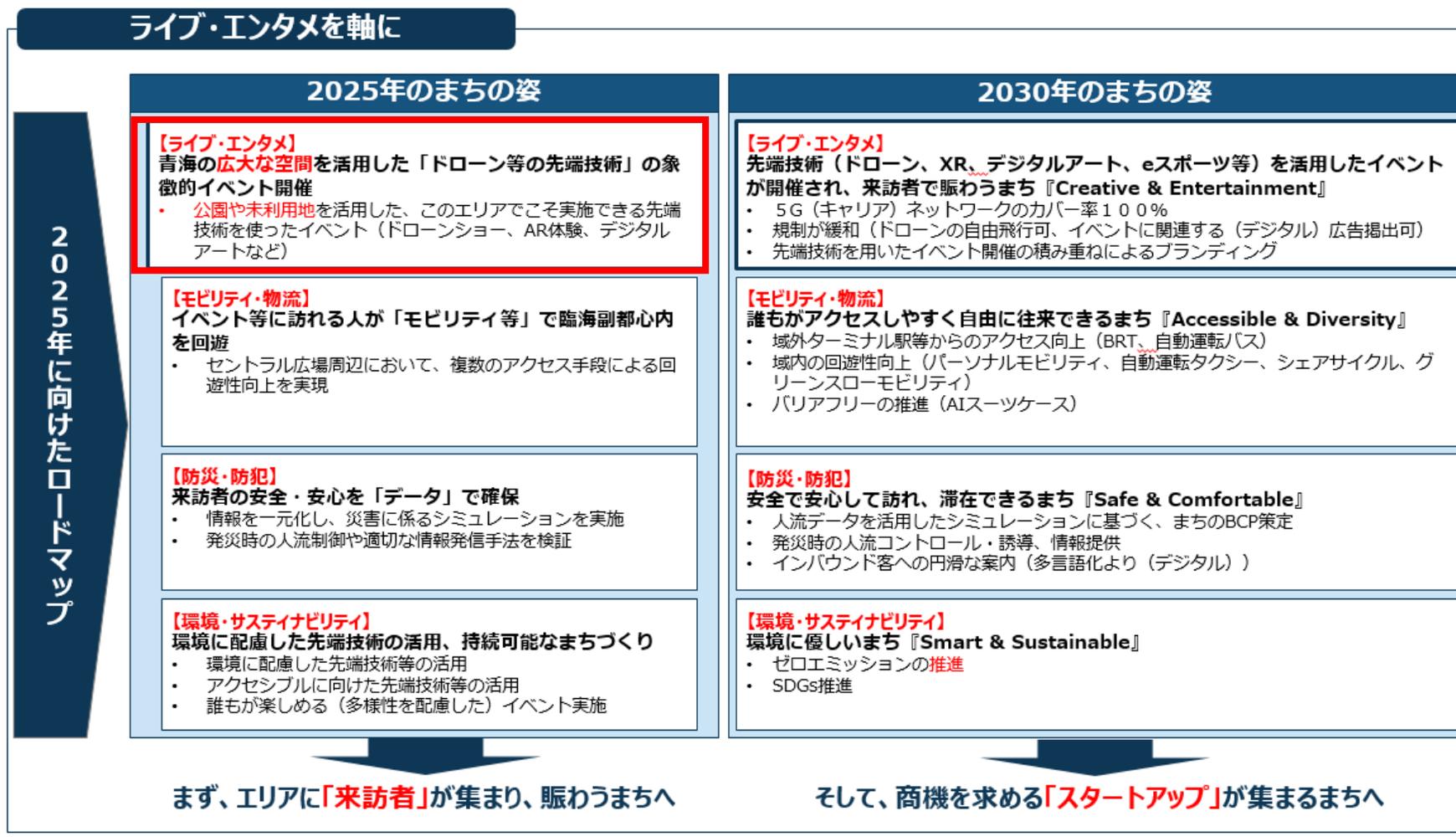
R4実証イメージ

- 【使用車両】 ① Le DESIGN社「PARTNER MOBILITY ONE」複数人同乗可能なモビリティ
② Panasonic Production Engineering社「PiiMo」追従ロボティックモビリティ
- 【走行場所】 ガンダム立像南側プロムナード～東京国際交流館周辺エリア



1. 令和4年度DIC協議会スケジュール
2. 各PTの開催結果
3. 実証企画の承認
4. ライブ・エンタメを軸としたDICの取組方向性
5. その他
6. 今後のスケジュール

- 2025年に向けたDICロードマップでは、2025年のまちの姿について**青海の広大な空間を活用した「ドローン等の先端技術」の象徴的イベントを開催すること**となっている。



ライブ・エンタメPTでの議論

- 一方で、第二回ライブ・エンタメPTにおいては、**DIC協議会がイベントを主催するのではなく、地域に根付いたイベントを支援していく意味合いで環境づくりやユースケースづくりをしていくべき**という議論もあった。

視点

主な意見

イベント主催に
拘るべきでない理由

- ✓ 臨海副都心エリアには、既に地域に根付いたイベントが数多く存在する
- ✓ 来訪者やスタートアップを呼び込む仕組みは、必ずしもイベント主催に限らない
- ✓ イベント開催では、効果が一過性にならざるを得ない（継続開催が必要）

考えられる方向性

- ✓ DICがプラットフォームを作り、外部からイベントを持ち込み開催しやすくする支援
- ✓ 例えば、行政の規制の影響を受けにくいイベントの枠組みを作るのも一案
- ✓ 過去のイベントで単発に終わってしまった事例について検証も必要

→DICは、引き続き先端技術の実証実験を行いつつ、他のイベントと連携する仕組みづくりや単発イベントの賑わいや効果を臨海副都心エリアに広げていく取組を行う

【参考】ART BAY TOKYOアートフェスティバルへの関わり

今年度開催されるART BAY TOKYOは、臨海副都心の魅力を高める象徴的なイベントとなるポテンシャルがある。仮に当イベントと連携をする場合、方向性としてどのようなものが考えられるか



引用) ARTBAYTOKYOアートフェスティバル 2022~NEW SCALE プログラム 詳細が決定しました
港湾局/アートプロジェクト実行委員会

支援の方向性

- ✓ 先進モビリティの社会実装を進めて、ABTの誘客をエリア全体の周遊促進へつなげる
- ✓ ABTの来場者の行動履歴や満足度等に関するデータを蓄積・管理・活用できるようにする
- ✓ エリア・コンセプトを策定し、ABTと臨海副都心のブランドを更に向上させていく
- ✓ ABTの来場者の体験価値を高めるスタートアップの実証・実装を呼び込む
- ✓ シンボルプロムナード公園や公道使用の手続、屋外広告規制を緩和し、連携イベントをしやすくする
etc

1. 令和4年度DIC協議会スケジュール
2. 各PTの開催結果
3. 実証企画の承認
4. ライブ・エンタメを軸としたDICの取組方向性
5. その他
6. 今後のスケジュール

自動運転実証企画

- 公園での実証は、WILLER株式会社/BOLDLY株式会社が受託者として内定
(使用予定車両：NAVYA ARMA)
- 公道での実証は9月上旬に募集を締め切り、現在審査中
- 10月上旬に、事業者決定のプレス発表を行う予定
- 令和5年1月中旬～2月中旬に実証プロジェクトを実施する予定

データプラットフォーム要件定義委託

- 8月末に公募を締め切り、現在審査中
- 10月のデータプラットフォーム検討会において、採用事業者より実施案の説明を行う予定

5Gの普及促進

- 7月28日に、まちの事業者を対象とした事例勉強会を開催（13社、24名が参加）
- 10月には専門家派遣事業の希望受付を開始予定
- 事例勉強会についても、年度内に第2回を開催予定

DIC社会実装支援窓口の開設

- 開設については、東京都全体のスタートアップ支援の動きを見据えて時期を設定
- スタートアップ等による問い合わせを受けて、施設紹介や行政手続きをサポート

スタートアップとの協働強化に向けた取組

- 東京都のスタートアップ施策の展開方針について
- 2022年2月に スタートアップ協働戦略ver.1.0 を策定 ➡ 11月にver.2.0へ更新

東京都のスマートシティ関連の取組状況

- 西新宿スマートシティ：<https://smartcity-nishishinjuku.jp/>
- 竹芝スマートシティ：<https://www.smartcitytakeshiba.com/>
- 南大沢スマートシティ：<https://minamiosawa-smartcity.jp/>

1. 令和4年度DIC協議会スケジュール
2. 各PTの開催結果
3. 実証企画の承認
4. ライブ・エンタメを軸としたDICの取組方向性
5. その他
6. 今後のスケジュール

PTの予定

- 第3回モビリティ・物流PT：9月22日（木）
- 第3回ライブ・エンタメPT：9月27日（火）
- 第3回データプラットフォーム構築検討会（+防犯・防災PT）：10月11日（火）
- 以降、2カ月に1回の頻度（2022年11月、2023年1月、3月）で定期開催の予定

次回の総会

- 第3回総会は、2022年12月頃に開催予定